

協会存続と参院選必勝を確認 —民社協会総会開催—

民社協会の平成10年度年次総会が、3月15日、東京都内の友愛会館大会議室で開催され、午後1時から4時40分まで活発な論議を展開した。その結果、政界激動のもとで民社協会の存続は必要であること、参院選挙で比例区3候補の当選をはじめ必勝態勢をつくること、などを確認した。総会には、沖縄と高知を除く全国の協会代表、産別代表、国会議員、ブロック選出理事、本部役員など160名が参加。傍聴者は立ち見ができる程の盛会で、熱気に溢れた総会となった。

総会は安倍常務理事の開会挨拶に続いて、議長に栃木の栃本健、京都の宇都宮壮一両氏を選出。まず米沢会長が挨拶をした。来賓で出席した堀江政策研究フォーラム理事長は「自由と連帯」の理念に立った活動の展開を要望された。友愛会からは「新民主党に理念政策の一致を求める。協会の役割は大きい」という服部会長からのメッセージが披露された。総会は活動報告、会計報告、会計監査報告に続いて、活動方針案、参議院選挙方針案（別掲）、予算案の提案があった。

質疑は一括して行われ、11人が質問や意見を出した。その主な点は以下の通り。

豊嶋代議員（神奈川）は、「協会活動は当分の間、現状維持」という決定から「当分の間」を削除せよ。民主党で国家の基本政策守れるか、民主党に「当分の間」合流しないとすべきだ。協会本部の運営にもっと地方代表を入れよ。

長尾代議員（富山）は、決算・予算案の数字に間違いがあり訂正せよ。新党合意の前に総会を開けなかったのか。新党友愛でなぜ頑張れないのか。新党友愛は政党助成金のため、民主党移行は参議院選挙のためと国民は思っている。



国民の理解をどうして得るのか。

松村代議員（鹿児島）は、数は力であり、民主党への合流は評価したい。

青山理事（大阪）は、民主党へは「吸収合併」だ、民主党で比例区3名当選の担保あるのか。自由党へ行った議員を協会としてどう位置づけているのか、排除でなく仲間として大事にすべきではないか。

大口代議員（石川）は、民主党と防衛政策、米軍基地、日の丸、君が代、北朝鮮拉致疑惑など合意できるか、むしろ

総会での米沢会長挨拶（要旨）

昨年末に新進党は公明の分党問題を契機として解党した。その結果、協会系議員も割れた。いずれかの政党を判断するかは政治家が自分の見識と政治生命を賭けた選択であった。協会がああすべきだ、こうすべきだといえない問題だったのをご理解戴きたい。今回、新民主党への4党合意が



出来た。協会そのものではないが重大な関心を持ち、傍観できない。今後、政策、方針が議論されるといわれるが、この点も本日論議されるだろう。しかし地方はいつも中央の動きに左右されるのではたまらないという声もある。新しい民主党がどうなるか見極めねばならない。こうした情勢の下で、いま協会が存在していて良かったと思うし、協会の役割は大きい。友愛会も当分、協会が存続して欲しいとの方針を決めてくれる。協会の役員会（2月4日）でもそのことを確認した。

参議院選挙は目前だ。仲間の組織内候補を必ず当選させなければならない。昨年の理事会等でもその方針を決めた。今回、比例区で民主党という党名を書いて下さいと言うのは複雑だが、何としても比例区での3名当選をはじめ参議院選挙勝利に全力をあげてもらいたい。

自由党と合流すべきでないか。社会主義インター加盟問題にどうアプローチしていくか。

細山代議員（新潟）は、新民主党の地方組織づくりは参議院選挙後に延ばせ。地方協会は民主党への吸収には反対だ。安保、原子力政策などのすり合わせで譲るな。協会は存続せよ。

山崎代議員（埼玉）は、新進党解党、新党友愛解党は地方無視だ。民主党への参加を急ぐことはなかった。総会では是非を問うべきだ。

木村代議員（宮城）は、どんな理念・政策かも分からないに民主党と一緒にいるのか。これ繰り返せば政党は信頼がなくなる。今度失敗したらもう元に戻らない。理念・政策をあいまいにするな。